

“My Leadership” Dialogue

「私のリーダーシップ」ダイアログ

チームは
リーダーに
向いてはい

と、私たちも活動前は思っていました



“My Leadership” Dialogue

「私のリーダーシップ」ダイアログ

他者や社会と出逢うことは、自分と出逢うことでもあります。
出逢う中で、自分の強み・弱みとともに、
大切にしたいことを見つめ直し、把握していくと、
他者や社会とどうかかわりたいかが見えてきます。

それが自分色の
リーダーシップ発揮への第一歩

「メンバーを引っ張る」や
「指示を出す」に限定されない、
役職・権限によらない、
半径5mで発揮できる、
自分色のリーダーシップ。

・自分の得意なことで
周囲の人をサポート
頼ることで
心をひとつにする
笑顔で楽しむことで
場づくり

意識したら
見えてきた。
準正課活動を
通して気づいた、
自分色の
リーダーシップ。

あなたはリーダーに
向いていない？

では、どんな人がリーダーですか？
発言力がある人？引ッ張ッて指示を出す人？
生まれ持ったカリスマ性や積極性がある人？
そんなリーダーもいます。
でも、そんなリーダーだけじゃない。

リーダーも、
リーダーシップも、多様。
自分色のリーダーシップを
発揮すればいい。



「リーダー」＝立場や権限によるものでなく
「変化をもたらすために、積極的に他者に関
与する、あらゆる人物」

出典：コミベズ他（著）日向野幹也（監訳）「リーダー
シップの探求：変化をもたらす理論と実践」早稲田大
学出版部、2017年

この冊子に登場する学生たちは

- ・目標を立て共有し
 - ・そのために行動し
 - ・サポートしサポートされる を通して、
- 自分のまわりの小さな社会に変化をもたらしてきました。

相手の話をしっかり聞いて理解するのもリーダーシップ。
笑顔でメンバーをなごませるのもリーダーシップ。
周囲を頼ることも、すべて、リーダーシップ。

あなたにも、自分色の リーダーシップがある。

リーダーに、向き不向きは、ありません。
リーダーシップ行動は、学習可能なのです。

リーダーシップの最小3要素

①目標設定

明確な成果目標を設定・共有する
（成果目標と行動目標を区別しよう）

②率先垂範

目標のために自分がまず行動する
（自分一人で行うのではなく、③の相互支援につなげよう）

③相互支援

他者が動けるようにサポートし、自分もサポートされる
（他者を理解することで他者が力を発揮できるように、
そして自分も「助けて」と言えるようにしよう）

出典：日向野幹也「第9章：新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング」松下佳
代編著「ディープ・アクティブラーニング：大学教育を深化させるために」勁草書房、2015年

これから、福岡女子大学が特色のひとつとしている
「体験的学習」内の「準正課活動」に取り組んだ
全く違うタイプの4人の学生のダイアログを紹介します。

4人の共通点は

「私はリーダーに向いていない」と思っていたところ。
そして、それぞれの準正課活動の中で、
他者と出逢い他者と動くことで、
「自分色」に気づき、つくっていているところ。

あなたの中にある「自分色のリーダーシップ」を
考えるきっかけとなりますように。

福岡女子大学の基本理念は 「次代の女性リーダーを育成」

あなたがもし、「リーダーって特別な
人になるもの」「私はリーダータイプじゃ
ない」と考えているなら、そこから一度、
自由になってみませんか？

リーダーシップ研究という学問分野が
あります。その知見によれば、立場や
権限をよりどころに周りに指示を出し
たり、係のように決められたことをこな
す、が「リーダー」なのではありません。
「よい変化をもたらすために、他者と積
極的にかかわり、協力し合う人」という
定義も用いられます。「変化」はどんな
に小さくてもいいのです。こんなふう
にもできる」を描き出し、他者と話し合
いながらそして助け合いながら前進して
いく。そんな行動がとれる人がリーダー、
ということです。

今、あなたが肌で感じるように、社会
は急速に変化し、そこには課題が山積み
となっています。身近なところではコロ
ナ禍。毎年のように起こる自然災害とそ
の向こうにある気候変動。広がるばかり
の格差や、根深い女性蔑視もあります。
様々な価値観が存在し、誰もが「正解」
だと納得できる答えはありません。そん
な中、無力感に襲われることもあるで
しょう。でも、無力なままを望んではい
ないはず。身近にある小さな問題意識を
きっかけに他者や社会と関わり、働きか
け、変化につなげる。その方がワクワク

しませんか？

100年前。「女性にも高等教育を！」
と、自分自身の問題意識を梃子に、描き
出し、立ち上がった女性たちがいました。
彼女たちは、多くの他者に働きかけ、支
援されながら、福岡女子大学の前身とな
る全国初の公立女子専門学校設立にこぎ
つけます。そんなルーツをもつ福岡女子
大学だからこそ、あなたが、「こんなふう
にもできる・こんなこともできる」を
描き、他者とかかわり、協力し合いなが
ら、自分色のリーダーシップを発揮して
いくことを、全力で応援しています。



なでしこメイト（寮教育部会学生委員）とは
福岡女子大学の教育寮「なでしこ寮」の寮生（1年生）の支援サポートを行う、公募で選ばれた2年生です。入寮支援・入寮オリエンテーション、毎週月曜日の寮活動の企画・運営、月1回の寮教育部会への出席、学生委員ミーティング参加などの活動があります。

頼ることで皆の心をひとつにするのもリーダーシップかも

活動を通して感じた私なりの次代の女性リーダーとは

積極的に他者と関わり、周りを巻き込める人

副リーダーがじっくりきていた私

以前より「人」に興味があって、相手の話に耳を傾け、質問をするのが好きでした。また話しやすい雰囲気づくりも得意なので、自然と相談役になっていたと思います。高校の部活動では副キャプテン。皆を引っ張る存在のキャプテンをすごいなあと尊敬しながらも、私はそんなタイプではないから「リーダーは向いていない」と思っていました。

苦手だった「頼る」「相談する」に挑戦

福岡女子大に入学した1年次、先生の指導を受けながらリーダーシップの概念を学ぶ機会がありました。そこで、リーダーシップとは、皆をたくましく引っ張る性格でも、役職や特権、権力でもなく、「行動」にあることを学びました。他者と積極的に関わり、頼ったり相談したりしながら、周りの皆を巻き込んで、皆が目指している方向へ進んでいけるようサポートすることがリーダーシップ。ならば私も皆もリーダーシップがとれるのでは？と意識するようになりました。

2年次で取り組んだ寮の課外活動「なでしこメイト」では、私をふくめて4名の2年生がアイデアを出し合い、活動を重ねてきました。コロナ禍で1年生の入寮が遅れるなど例年ないことも多く、頑張りすぎたり、悩んだりした私。なんだか「しんどいな」と思う日が増えたので、勇気を出してメンバーに相談することにしました。すると「次からもっと頼ってね!」「大変なことは話してもらっていいんだよ」と反応がもらえ、4人であらためて心ひとつにして支え合おうという気持ちでまとまれたと思っています。

この「行動」は、人に相談したり、関わったりすることに苦手意識があった私自身を変えるきっかけになりました。

実体験から発見する真のリーダーシップ

胸の内を語り合い、目標の共有をより進めた「なでしこメイト」の4人。結果、目標であった1年生が主体的に動いてくれる環境づくりを達成できました。この体験で「皆を引っ張るだけがリーダーじゃない」を実感できた私。リーダーシップについて深く理解するには、まず概念を知識として知り、それを日々、実体験していくことが大切だと分かりました。

相談するって、得意じゃなかった

国際教養学科 2年
なでしこメイト／JD-Mates WJC

盛 利香子さん

1年次、海外体験学習プログラムでスリランカへ。その一連の学びの中でリーダーシップ論に詳しい和栗百恵准教授とセッションを重ねました。



話すより聞くほうが好き

環境科学科 2年
広報サポーター 統括リーダー

鎌田 菜那さん

優柔不断な面もあり、頼まれごとは基本的に断れない。自分が率先して何かするよりも、チームのサポートに回る方が向いていると思っています。

4人みんなでリーダーをしてみよう

広報サポーターの活動には、広報をやりたい学生が集まっているので、メンバーは皆とても協力的です。そんな中、同学年のリーダーを務めることになった私たち4人。例年ならば代表を1人を決めるのですが、私たちにはそれができませんでした。4人とも「自分は向いていない」と考えていたのです。「だったら、4人で1人のリーダーとなってメンバーを引っ張ろう」。その方向で話がまとまりました。

これという役割がなかった私は…

先輩方とは違うかたちでスタートを切った私たち。まず、自分たちが普段何をしているのか？できることは何か？を把握してみることにしました。いつもミーティングで進行役を務めてくれる人、書記をしてくれる人、文章をまとめてくれる人。そして私はこれといって決まったことをしていなかったもので、全体を眺め、抜けや漏れがないかを確認をする役割を担ってみることにしました。

おおまかな役割を決めて、後はそれぞれが気づいたことをやる。あえて担当をはっきり決めないというスタイルは私たちに合わせていたようで、今もそのやり方を続けています。必ず行っているのは、毎月の全体ミーティングに向けての事前打ち合わせです。コロナ禍の中でもありましたので、4人LINEグループなども活用しながら、やるべきことを確認。こまめな情報共有と意見交換も良かったのかもしれません。

知識や情報をシェアしていきたい

リーダーとして活動を4人で重ねた今、リーダーのかたちは色々あっていいのかなと思います。アルバイト先でリーダーを務めている方々もそれぞれの得意な分野は違いますが、ご自身が豊富に持っていらっしゃる知識をシェアすることで、他のメンバーを引っ張っています。

私は今、幅広い知識を得られる文理統合教育を推奨する福岡女子大学で学んでいます。その中で専門的な課題にチャレンジすることで、より得意な分野を見つけていきたい。その分野の知識を周囲の人にシェアし、積極的に情報共有をすることで、変化をもたらすことができればいいと考えています。

活動を通して感じた私なりの次代の女性リーダーとは

自分の得意な分野で引っ張っていくことができる人

自分の得意なこと

周囲の人を巻き込めたら

広報サポーターとは
福岡女子大学の魅力を高校生に向けてPRするための組織です。学生たちはリーダーを中心に月1回のミーティングを開催。アイデアを出し合い、年に3回あるオープンキャンパスの企画を立て、当日の運営にも関わります。参加学生は4学年で200人を超えます。





100周年記念誌編集部学生委員 とは
2023年に100周年を迎える福岡女子大学の100周年記念誌を編集する学内委員会に、学生委員として参画。吉田さんはその広報活動の一環として、2021年1月に自身が取材した内容でコラムを執筆。同年2～3月に学内で展示を行いました。

次代のリーダーって難しくない
誰もがなれる、身近な存在

最初は、特に意識していなかった

学生委員活動の狙いのひとつに「リーダーシップの理論を学び、自分らしいリーダーシップを探究・向上させる」があるのですが、学生委員に応募する時は、私はリーダータイプでもないし関係ない…と思っていました。100周年記念誌の編集で苦手な歴史分野に取り組んで、今までしていなかったことに突っ込んでいこう！くらいの軽い気持ちでした。

笑顔もリーダーシップになるなんて

ある日、私は100周年記念誌編集部会の職員さんに対して、にこにこ微笑みながら会話をしていました。その場面にリーダーシップ論の先生がたまたま通りがかり、「あなたが素直に笑顔で話すことにより、あなたと職員さんは互いに理解を深められます。ふたりとも今後の活動がしやすくなるし、それは編集部会の活発化にもきつとつながりますよ」と言ってくださいました。これにより私の「笑顔で話す」という行動が、リーダーシップの最小要素「相互支援」にあたると気づくことができ、私にもリーダーシップが発揮できているのでは？と考えるようになったのです。

リーダーシップを学ぶと変化が生まれる

そう分かったことにより、実は、内面にもうれしい変化がありました。自己肯定感が増し、発言にも少しずつ自信が持てて、前よりも生きやすくなったのです。

このようにリーダーシップについて学ぶことは、一人ひとりにも、いい変化を与えます。今は小さな変化ですが、私たちが社会に出る頃には、大きな変化となるでしょう。リーダーシップを学んだ人数が多ければなおさらです。そして一人ひとりの変化が、今度は社会を動かしていく。よりよい社会に変えていく。そんな未来を私は想像しています。

福岡女子大学の基本理念は「次代の女性リーダー育成」ですが、この言葉をあえて難しく捉えなくてよいと考えています。私たち全員が、政治家や経営者のような大きな社会のリーダーを目指しているわけではありません。まず大切なのは仲間内や勤務先の部署など小さな社会で発揮する自分なりのリーダーシップです。これを大学生活で学んでいきたいです。

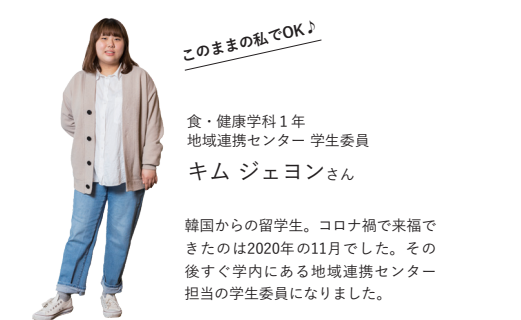
活動を通して感じた私なりの次代の女性リーダーとは

自分と他人を見つめることができる人



自己肯定感、UPしたよ
国際教養学科1年
100周年記念誌編集部会 学生委員
吉田 小春さん

大学生になったら何か新しいことをしようと思い立ち、学生委員に応募しました。性格は真面目で粘り強いけれど、ネガティブな一面も持っています。



このままの私でOK♪
食・健康学科1年
地域連携センター 学生委員
キム ジェヨンさん

韓国からの留学生。コロナ禍で来福できたのは2020年の11月でした。その後すぐ学内にある地域連携センター担当の学生委員になりました。

リーダーって、強い人になるんだよね？

私のリーダーのイメージは「強い人」でした。自分の意見を積極的にアピールして、みんなの意見もどんどん取りまとめられるような人です。韓国では何か問題が起こると、良くも悪くもストレートに非難されるのが普通なので、矢面に立つリーダーには強い人が多かったようです。リーダーの存在は社会には必要ではありますが、自分が担うとなると正直ちょっとめんどろだな、と考えていました。

来日後すぐ、学生委員として司会に挑戦

入学から7カ月以上たった11月末。私は韓国を出発し、福岡女子大学のキャンパスに通い始めました。その後、学内にある地域連携センターの学生委員活動をスタートさせ、12月に開催された生涯学習カレッジ修了式では司会に選ばれました。日本語表現に少し不安をおぼえながらも思い切って挑戦したところ、「外国人留学生が頑張っている姿がとてもよかった！」「式がより楽しくなったよ！」の声をいただきました。私が司会をすることで、場がなごみ、皆さんの修了式が思い出に残るものになったことがとてもうれしかったです。

リーダーにも多様性があるといい

その後、リーダーシップについて学ぶ機会があり、「強い=リーダーではない」「自分が行動することで、場をなごませたり、ほっとさせたりできるのも、リーダーの要素のひとつ」という考え方に触れたのです。先生からも、私が慣れないなりに司会を引き受け、修了式の雰囲気をよくしたことも、私らしいリーダーシップだったと言っていました。

リーダーキャラは「強い」「頼もしい」など画一的でなくていい。リーダーにも多様性があるから、私は私なりのリーダーになれる。皆は皆なりのリーダーになれる。リーダーに対する考え方にも、そんな変化が起こりました。

ちなみに、外国人留学生のための授業「学術日本語プログラム」では、外国人学生同士で意見交換をする時間があります。その時、私は先に自分が発言し、皆が話しやすくなる雰囲気をつくるようにしていました。その行動も、私なりのリーダーシップだったのかなと今は思っています。

活動を通して感じた私なりの次代の女性リーダーとは

自分の能力を活用して自分なりに頑張る人

私のリーダーシップ行動は
「なごませる」「笑わせる」



地域連携センター学生委員 とは
福岡女子大学のキャンパス内にあり、地域の方々に気軽に立ち寄っていただける施設「地域連携センター」。その運営に携わる教職員によって構成された学内委員会に、学生委員として参画しています。地域の方々と直接かかわる機会が多く、実社会との接点が豊富です。

準正課活動に取り組んだ

食・健康学科 1年（地域連携センター 学生委員）キム ジェヨン [右]
 国際教養学科 2年（なでしこメイト・JD-Mates WJC）盛 利香子 [右中]
 環境科学科 2年（広報サポーター 統括リーダー）鎌田 菜那 [左中]
 国際教養学科 1年（100周年記念誌編集部会 学生委員）吉田 小春 [左]

通年で行われる学生委員の全体ミーティングの企画・運営に携わった

国際文理学部 准教授 和栗 百恵
 学生支援センター 職員 石井 佐代子

誰もが気づける、見つけられる 半径5mにあるリーダーシップ

「私はリーダーに向いていない」という4人の学生が
 リーダーやリーダーシップの概念に触れ、変化したプロセスを言語化します。

みんなを引っ張る人が リーダーになるの？

和栗 今日は座談会に参加してくれてありがとう。盛さん、キムさん、吉田さんは学生委員の活動をとおして、リーダーやリーダーシップの概念、理論に触れてきたと思います。活動やその中で感じたリーダーシップについて語り合い、年度末には発表もしてきましたよね。鎌田さんは広報サポーターなので、概念や理論のインプットがない中で活動してきました。それぞれ状況は違いますが、今、みなさんが考えていることをリアルに聞かせてください。まず、みなさんが持っていたリーダーのイメージはどんな人？

鎌田 高校生の時は、クラスメイトをぐいぐい引っ張っていく人がリーダーだと思っていました。

キム リーダーは強くて、自分の意見を曲げない人、かな。私はアドバイスされたら「なるほど！」と意見をとり入れるタイプなので、リーダーに向かないと感じていました。

盛 発言力があって声も大きい人。文化祭や体育祭で活躍するヒーロータイプのリーダー。すごいなあ。

吉田 高校の生徒会長だった女の子は皆にすごく慕われていました。ちなみに昨日、友達に「リーダーってどんなイメージ？」と聞いてみたの

ですが、「先生から指示されてプリントを配る人」「なるとめんどくさい」という返事が返ってきたんですよ。

和栗 確かにそういう役割もありますものね。でもそれだけじゃないのがリーダー、そしてリーダーシップ行動なんです。

リーダーシップとは？に触れ 私たちの行動は変化した

和栗 福岡女子大学の基本理念は「次代の女性リーダーを育成」です。この大学からのメッセージ、どう受けとめましたか？

鎌田 大学受験の時にはまったく意識していませんでした。どこかで目にしていたはずですが、気にもとめていませんでした。

キム 私も「そうなんだ」くらいの感覚で、言葉の意味を重く受けとめていなくて。それには関係ないという感じで捉えていましたね。

和栗 正直でいいですね（笑）。ところで学生委員の3名は、学生委員の活動内でリーダーシップの概念や理論に触れる機会がありましたよね。

盛 はい。リーダーシップの最小3要素「①目標設定 ②率先垂範 ③相互支援」という理論には初めて触れました。これまでリーダーという役割は認識していたけれど、リーダー

シップについて深く考える機会はありませんでした。

和栗 この最小3要素、そしてそれらがリーダーシップ行動につながっているのを知ったことで、どんな変化がありましたか？

盛 私は寮生のイベントの企画運営や日常生活のサポートをするなでしこメイト・寮教育部会の学生委員をしていたのですが、2020年度はコロナ禍の影響もあり、1年生が4月に入寮できませんでした。そこで1年生と私たちがオンラインでつながれるイベント「あつまれいねんせいの森」を計画しました。イベント開催を提案（目標設定）したのが私で、その目標を「みんなのものにする」ことが必要でした。自分から進んで動く（率先垂範）のは当然のことと頑張りました。そして、計画を職員さんに理解していただき予算をつけてもらったり、なでしこメイトのメンバーに協力してもらうことも必要でしたので、伝え方やタイミングを考えながら「こんなオンラインイベントはどうだろう？」と働きかけていきました。初めてのことで

だけで問題もありましたが、お互いに得意分野や苦手分野のバランスをとりながら相互支援までに至ったのではないかな？と思っています。

鎌田 私は最小3要素について、今日、初めて知りましたが、広報サポ

ターの活動の中で、目標を掲げるこ

とは特に大切だなと感じていました。全体の目標を設定すること、そして目標を全員に共有すること。それは広報サポーター一人ひとりのモチベーションにつながります。目標がよく分からないのに「これ、やっておいね」では、動きなくなってしまうですよ。

キム 確かにそうですね。

鎌田 またオープンキャンパスと一緒に作りあげるメンバーには「高校生とお話できるから楽しいよ」だけでなく、「福岡女子大学の学生としての自分を見つめ直すきっかけになるよ」とも伝えていました。また、お給料が出ることについても前もってお話をして「お給料が支払われるほど重要な役割だし、経験と金銭面の両方で自分のメリットにもなるよね」との認識を共有するように心がけていました。

盛 他者とかかわることって大切ですよ。私以前はひとりで行った方が早いと思うがちで、人を頼るのが苦手だったんです。でも大きな目標を達成したい時は、自分の努力だけでは解決できないと実感できました。周りを巻き込んだ方が物事は大きく動きます。そしてちゃんと相談したら、皆に伝わります。

和栗 盛さんは、企画書・報告書の書き方を学ぶ機会を創り出すため





大学という「社会」の中で、
自分色のリーダーシップを育て、
可能性を広げてください。



福岡女子大学には、全員参加の準正課活動（自治会・寮活動）および、希望者が参加する課外活動（学生委員、なでしこメイト、広報サポーターなど）があります。

これらの活動では、大学という「社会」に飛び込み、私たち大学職員や教員とアイデアを出し合い、行動し、大学にいい変化をもたらすことまで可能です。中でも学生委員の活動は「リーダーシップ論」に触れる体験もセットになっています。

私は大学時代サッカー部のキャプテンを務めていましたが、当時「リーダーシップ論」に出会っていたら人生が変わっていたかも…と思うことがあるほどです。今だけでなく、これからのあなたの大学生活そして卒業後も、自分や、自分がある場所の可能性を広げられる「リーダーシップ」を学び、試してください。

学生支援センター 職員
石井 佐代子

メールでアンケート調査を行ったのですが、返答があったのは1割弱。そして福岡女子大学を志望した動機が「次代の女性リーダーを育成しているから」という回答はゼロでした。私自身もそうでした。中にはリーダーシップ論はとても深い題材なので、皆にも学ぶことをおすすめしたいと書いてくれた学生もいましたが、ほとんどの人はこの大学の国際性などに目を向けて入学したのが実情だと思っています。

に気づけば、自信が出て、いろんなことに対してより前向きになれるますから。学生全員が変われば、大学全体も変わって、さらに盛り上がりそう。楽しそうですね！

吉田 私たちが学生委員の活動で知った「リーダーシップの最小3要素」について、学生全員が触れる機会をつくりたい。そしたら皆の意識が変わりそう。「女性リーダー育成論」ではジェンダーについて学べて興味深かったな。ジェンダーに加えて、リーダーやリーダーシップの概念や理論自体を学ぶ科目を必修にしてもいいかもしれないと思います。

吉田 私たち学生委員の活動で知った「リーダーシップの最小3要素」について、学生全員が触れる機会をつくりたい。そしたら皆の意識が変わりそう。「女性リーダー育成論」ではジェンダーについて学べて興味深かったな。ジェンダーに加えて、リーダーやリーダーシップの概念や理論自体を学ぶ科目を必修にしてもいいかもしれないと思います。

吉田 異文化交流に興味を持っている学生が多いので、韓国のリーダーシップ、日本のリーダーシップについて、対話をするのもいいかもしれません。

吉田 異文化交流に興味を持っている学生が多いので、韓国のリーダーシップ、日本のリーダーシップについて、対話をするのもいいかもしれません。

盛 今日、ここで話したことで「誰もがリーダーになれる」ということを再確認できました。これからの大学生活の中でも皆で目標を達成していくシーンは多々あると思います。そんな時に私たちが触れたリーダーシップの理論を周りの皆にも伝え「リーダーシップってこういうことなんだ！」と気づいて行動してもらえよう、自分から働きかけていきたいなと思いました。

吉田 実は今まで自分が他者の役に立った、いい影響をもたらしたと感じたことがなかったので、先生にそう言っていただけで、素直にうれしかったです。みんなをぐいぐい引っ張るリーダーは向いていないけれど、私なりのリーダーシップ行動をとることはできるんだと、考えが180度変化しました。

キム 私も、生涯学習カレッジ修了式の司会で皆さんに喜んでいただいたことがリーダーシップにつながると

と教えていただいた時は、いろんなかたちのリーダーシップがあるんだなと驚きました。それからは、外国人留学生の中で雰囲気づくりなどを心がけています。来日して半年も経っていないので、目に見えて何かが変わったわけはありませんが、これから少しずついい変化があるとうれしいですね。

和栗 リーダーという言葉は、立場や権限のことであったり、引っ張るとか強い人とか考えられがちですが、リーダーの定義の中には、いい変化をもたらそうと積極的

と、興味をもってかわかることで、自分が何か目標を掲げた時に応援団になってもらえる。「あなたのためなら動くよ」と手を挙げてもらえ一緒に目標に向かい、達成する。これは誰もがすぐにでも始められるリーダーシップ行動ですね。そのことを高校生にも知ってもらう価値はあると思いますか？

鎌田 価値があると思います。そして広報サポーターの目線言えば、まず福岡女子大学の学生全員に共有することが必要だと感じました。オープンキャンパスで高校生に「福岡女子大学ではリーダーシップってこんなふうにも学べるんだよ」と伝

えるのは広報サポーターの学生です。ですから私たち学生への周知が大切になるのではないのでしょうか。

盛 そして学生への周知として、理論のインプットだけでなく、その理論を福女大の特色でもある色々な「動く機会」につなげられるようになってほしい。実際に動いた時にはじめてリーダーシップを自分ごととして捉えられるんじゃないかな。

吉田 私は学生委員の活動でリーダーシップ理論に触れたこともあり、ファーストイヤーゼミで「リーダーシップについて考えたい」と提案してみました。皆が賛成してくれたので、1〜4年生の学生全員に

概念や理論は思い込みを外し、
自身や他者、世界を観るための、
新しい枠組を与えてくれます。
新しい枠組を実体験の中で検討することで、
学びや成長が生まれる。
彼女たちが語る「私のリーダーシップ」を、
日常の中でぜひ検討してみてください。

司会
和栗 百恵
国際文理学部 准教授



リーダーシップの「芽」を育てよう

国際文理学部准教授 記念誌編集部会会長
渡邊 俊



何か新しいことをやってみようと思っている皆さん、自身のもつリーダーシップに「目」を向けてみませんか。

「リーダーシップなんて、私には無いよ」。そのようには思わないで、まずは自分で自分を問い直してみましょう。そして、とりあえず現在の「私」を丸ごと肯定してみましょう。「ちょっと苦手だな」と思うところや、「これならば出来るかも」と感じるところがあるかと思います。それらすべてが現在の「私」の特徴と思って、いったん丸ごと肯定してみる。

ここまでできたら、しめたもの。皆さんがもつリーダーシップの「芽」が出たとみられます。それは、なぜでしょうか？現在の「私」に気づきは始めているからです。気づくために、すでに多くの他者とかわり合っているからです。

皆さんの中にあるリーダーシップの「芽」を、どんどん育てていきましょう。

仲間を知ることがよい仕事につながる

アドミッション・センター 職員
國 麻衣子



広報サポーターの担当として学生とかかわると、「頼りになる」人や、「コミュニケーション能力が高い」「面倒見がよい」「協調性がある」と実に様々な人がいて、それぞれが活躍してくれることに気づかされます。

広報サポーターの一大イベントである夏のオープンキャンパスは、2000人を超える来場者を迎えるため約130名の広報サポーターが準備と当日の運営に携わります。準備段階ではリーダーの4名の学生たちが、イベントの成功イメージを、ともに活動する仲間である広報サポーターと共有し、試行錯誤を重ねていきます。

リーダーという役職の有無にかかわらず、まずはお互いに仲間一人ひとりを「知ろう」と、ちょっとしたおしゃべりなどで見えてくる特性を観察し、お互いの特性を活動の中で発揮させていこうとする時、よい仕事ができているように感じます。

私たち教職員とともに、大学という「社会」をつくりだしてみませんか。

授業以外で教職員とかかわりながら進める準正課活動。
教職員も思いをもって活動しています。

異世代交流にチームで取り組む

地域連携センター 職員
柴尾 祐子



地域連携センターにおける学生の活動は、本学主催事業や香住丘校区・近隣施設の行事への協力・支援を通し、地域の発展につながる能力を養うことを目的としています。教職員とともにチームで取り組むこと、そして一般の方、また幅広い年齢層と交流できるのが特徴です。

学生たちは、チームにおける自分の役割を摸索・試行したり、イベント当日の突発的な出来事に対し、自分で考え臨機応変に対応したりする中で、多くの気づきや学びを得ているようです。自分が役に立つことや、喜んでもらえることなどを実感する中で、リーダーシップやチームワーク、コミュニケーションといった力をつけているように感じます。

普段なかなか機会のない異世代交流を通じ、それぞれの立場の違いを理解し、自ら考え他者を思いやりながら行動し、「地域貢献」への自分なりのアプローチをつくっていただく。

指示をこなす、を超え意欲を形に

国際化推進センター 職員
馬場 広希



JD-Matesは、留学生の生活・学習支援だけでなくイベントの企画や、行事の運営補助など、様々な場面で活躍しています。異文化に触れる経験ができることはもちろんですが、学生同士がチームとして、学年・学科を越えて連携して活動することで、協調性やコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

JD-Matesとかかわるにあたって、「1から10まで全て指示を出さない」ことを心がけています。「留学生ともっと交流したい」という意欲を工夫を凝らして形にする、リーダーや広報担当などの役割にとらわれず、自ら考えそれを表し仲間と擦り合わせることが大切です。

初めは指示を待つことが多く、ミーティングでも発言をしなかった学生が、徐々に自分の意見を言うようになり、率先して留学生支援を行う姿を目の当たりにするのが、とにかくうれしいです。

FWUの体験的学習

準正課活動を
知ろう

福岡女子大学の基本理念「次代の女性リーダーを育成」のため

羅針盤・FWU COMPASS。

学生たちは、FWU COMPASS内に示された

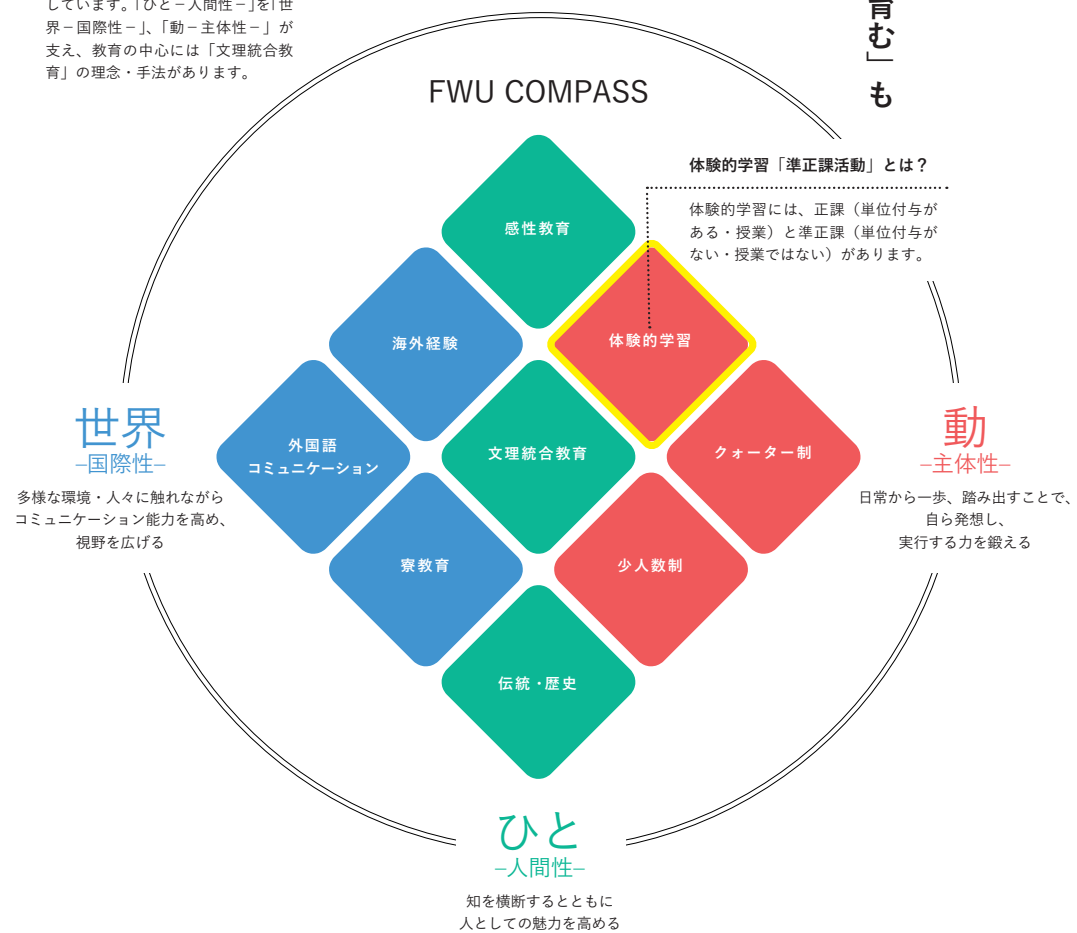
9つの特色ある学びを通じて、成長していきます。

その特色のある学びのひとつに位置付けられた「体験的学習」では、実体験を通じて、自分・他者・社会を見つめ「こんな可能性もある！」を描く試みを重ねます。

「FWU COMPASS」とは

国際文理学部設置の意義をふまえ、学部教育の目的、手法などをわかりやすく示したものです。

「世界を動かすひとをつくる」は、国際文理学部の教育理念を凝縮して表しています。「ひとー人間性ー」を「世界ー国際性ー」、「動ー主体性ー」が支え、教育の中心には「文理統合教育」の理念・手法があります。



世界を動かすひとをつくる。

活動して、気づけた。
私の中にある
自分色のリーダーシップ！



多様な活動に飛び込み、体験を重ねられる準正課活動一覧

準正課活動には、他者や、大学内外の「社会」とかかわる機会が豊富に存在します。
興味関心がある分野にまずは飛び込み、かかわることを通じて、「自分」や自分色のリーダーシップを見つけ、つくっていきましょう。

学内

寮生活を 充実させる

なでしこメイト／寮教育部会 学生委員

公募で選ばれた2年以上の学生。寮生のイベントの企画運営や日常生活全般をサポートします。

なでしこ寮 有志活動

1年生の有志を募り、エコ・放送・イベントチームなど、様々なジャンルのチームを組み、自主的に企画・運営を行います。

大学のことを 発信する

広報サポーター

大学の魅力を発信します。200名程が在籍し、2年生を中心とするリーダーが企画・運営します。

記念誌編集部会 学生委員

本学の百年史編纂事業の一環として、広報誌のコラム執筆や展示企画を通して学内外への広報活動を行います。

異文化に ふれる・かかわる

JD-Mates

外国人留学生の生活・学修支援を行うパートナー制度で、国際的な行事にも積極的にかかわることができます。

Languageカフェ サポーター

言語学習や文化理解を目的に、多くの語学チームがランチタイムに活動。その企画から運営までを楽しくサポートします。

大学運営に かかわる

図書館部門 学生委員

図書の貸出などの業務を行うだけでなく、様々な企画・立案などを通じ、図書館運営に主体的にかかわることが可能です。

図書館 美術館部門 学生委員

美術館業務(企画・展示・搬入・搬出など)、文化庁事業補助(講座準備、当日運営など)のサポートをします。

福岡女子大学 学生自治会

自分たちの大学をもっとよくしたい！という想いを形にしていくために、学生大会や教職員学生協議会など活動を行います。

「就職」について 考える

内定報告書作成

採用選考の流れと具体的内容をまとめることで、入社への心構えを新たにし、後に続く後輩へ繋ぎます。

インターンシップ（九州インターンシップ推進協議会）

企業での就業体験を通じて、業務内容や職種、働くことの理解を深め、スムーズな就職活動に繋がります。

学外

地域と つながる

香住丘校区の活動

香住丘校区で実施される小学生の体験活動(登山・茶道など)のサポートや防犯パトロール、各種イベントに関わります。

東部地域大学連携 学生活動

九州産業大学、福岡工業大学の学生と一緒に、防犯・交通安全キャンペーンや東区で開催されるイベントなどに参加します。

福岡未来創造プラットフォーム 学生交流プロジェクト

福岡都市圏15大学の学生と一緒に、商店街振興や地域貢献をテーマとした課題解決に取り組みます。

地域連携センター 学生委員

地域連携センターの事業の運営サポートに従事します(生涯学習カレッジ、ノーベル賞受賞記念講演会など)。

しょくばねっと（福岡女子大学食育ボランティア学生ネットワーク）

設立17年の食育サークル。県産食材や郷土料理を紹介した教材開発やイベントなどで食と健康の大切さを伝えます。

学生地域共催イベント

キャンパスオープン化と地域交流の推進を目的に、納涼祭、イルミネーション点灯式などの企画運営を行います。

高校生のためのイングリッシュ・キャンプ

英語授業のサポートを通し参加高校生と交流を図ります。当日の受付・誘導・会場準備などの運営もサポートします。